

# 岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

## 第65号

平成30年7月吉日  
発行 岡田宮社務所  
郵便番号 806-0063  
北九州市八幡西区岡田町1番1号  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330  
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>  
Eメール [okadajinja@jcom.home.ne.jp](mailto:okadajinja@jcom.home.ne.jp)



## なごしさい 夏越祭

(7月29日)

無病息災 除災招福



## 七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成三十年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

### 記

- 三歳 平成二十八年生 (かぞえ齡)
  - 五歳 平成二十七年生 (満年齢)
  - 七歳 平成二十六年生 (かぞえ齡)
  - 平成二十五年生 (満年齢)
  - 平成二十四年生 (かぞえ齡)
  - 平成二十三年生 (満年齢)
- ※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。  
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



## 正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神札やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所  
電話 (621) 一八九八  
までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上  
未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望  
茶髪不可 (程度によります)

## 岡田宮夏越祭 ごあんない

平成三十年七月二十九日(日)

午後六時~九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるつてご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

■魔除けとして玄關に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■かき氷一〇〇円

地元青年会の屋台がたちます。

17:00 ちびっこ縁日

スーパーボールすくい・ヨーヨーつり  
焼き鳥・唐揚げ・ドリンク・  
フライドポテト

※キャンドルを作ってくれた児童には  
ちびっこ縁日で使える引換券を差し  
上げます。

17:00 奉納書道表彰式

18:30 キャンドルナイト点灯式

19:00 ステージイベント

### 100円券

当日この券をご持参ください

### 目次

夏越祭ごあんない	1	神社なぜなぜ問答 65	3
岡県紀行5	2	七五三	4
総代会研修旅行	2	巫女奉仕者募集	4



## 有川写真館

岡田神社 STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46  
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00  
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

## ¥10,800~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

## ¥0~

(お一人様)

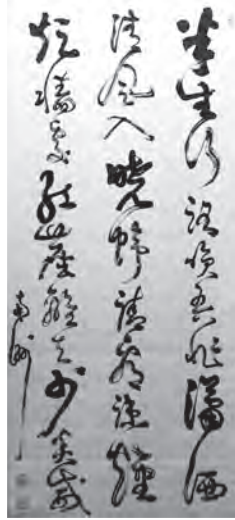
新作ブランド衣装など多数取り揃えております

### 岡田宮所蔵の西郷隆盛の書

今年(明治元年(一八六八)から二五〇年後にあたる。昨年は明治〇年(一八七七)に起こった西南戦争から四〇年後であった。これらに深く関わったのが西郷隆盛(一八二七～七七)、今年の大河ドラマ「西郷どん」の主人公である。

西郷隆盛は幕末期の尊王活動討幕運動において活躍し、薩摩と江戸・京都・大坂を往来している。そのため黒崎宿を通行利用したのは想像に難くないが、管見の限りそれを示す同時代史料は見当たらない。ただ、黒崎宿田町には、天保十五年(一八四四)五月に薩摩藩御用達となった旅籠廻船業者である桜屋(薩摩屋二「薩摩問屋」)があり、肝付尚五郎(小松帯刀)なども利用していた。桜屋主人の古海(宇都宮)正顕は岡田宮の氏子の一人であった。

さて、黒崎宿熊手田町の産土神の岡田宮には西郷隆盛の書(漢詩七言絶句)がある。掛幅装で大きなものである(掛軸の全長は縦二二〇cm、横八六cm、本紙は縦二四六七cm、横六六三cm)。



半生行路咲吾非瀟瀟  
清風入曉幃請看疎煙  
短牆處紅塵離去少炎威

南洲 西郷隆盛(南洲)  
(藤氏隆永)

半生の行路吾が非を咲い、瀟瀟たる清風曉幃に入る。請う看よ疎煙短牆の處、紅塵離れ去つて炎威少なきを。

「南洲」は西郷の号、「藤氏」は西郷の本姓である藤原氏の略である。「隆永」は彼の本来の諱(実名)である。

この漢詩は『西郷隆盛全集』第四卷(一九七八年、大和書房)に、「西郷が参議を辞職して帰郷した夏を自宅で迎えた明治七年の作であろう」とある。

明治六年(一八七三)の「征韓論政変」で西郷の主張は通らず、彼は下野し、鹿児島に帰った。この漢詩は次のように訳せる。

「鹿児島島の自宅で西郷は」自身の半生を自嘲し、(東京とは異なり)夕方にはさわやかな風が室内に入つて来る。どうか見てくれ、まばらな煙が立ち昇る短い垣根の家々があるこのところを。(東京の)にぎやかな街の道路に立つほこり、この世のわずらわしい事柄から離れ去つて、夏の暑さもそれほどでもないことを。」

西郷は自作のこの漢詩を気に入っていたようで、岡田宮所蔵のもの以外にも二点が『西郷南洲先生墨香』(一九七二年、西郷南洲先生墨香遺訓刊行会)から確認できる。

なお岡田宮の西郷書は、西郷南洲顕彰会の鑑定で真筆とされたもので、世間にあふれる西郷のものと異なる書が多く偽筆であるなかで、非常に希少・貴重なものである。

(北九州市立自然史歴史博物館学芸員 守友 隆)

### 総代会研修旅行

大島 千尋

平成三十年二月二十一日、毎年恒例の総代研修旅行が開催されました。

八時半に神社を出発し、福岡市博物館と向かいました。学問の神(天神さま)という特別展が開催されており、当社の天神絵巻が展示されていました。学芸員の方が分かりやすく説明してくるので、難しい文章もすぐに理解ができて楽しい時間になりました。

次に、福岡市西区鎮座の鷲尾愛宕神社へと向かいました。愛宕神社の御祭神は伊弉諾尊・伊弉冉尊・火産靈神・天忍穗耳命です。高台からは博多湾を一望でき、眺めがとても綺麗でした。

正式参拝後は昼食をいただき、博多の食と文化の博物館・めんたい工場へと向かいました。めんたい工が完成するまでの製造過程や作り手の細やかな思いを学びました。他にも様々な展示・体験コーナー・博多の名産品が揃うお店があり、思い思いに楽しい時間を過ごしました。

総代研修旅行は、毎年得るものが多く有意義な時間を過ごすことが出来るので、来年もまた総代、崇敬者の皆様と共に学び多い研修旅行に参加させていただきたいと思っております。

愛宕神社の皆様には厚くおもてなしいただき心より御礼申し上げます。



### 神社なぜ問答 (その65)

#### 「朱塗りの鳥居と狐」 について教えてください。

稲荷神社は、農村部では五穀豊穡を祈る農業神として、また都市部では商売繁盛や病氣平癒などの神様として庶民の篤い崇敬を受けています。

さて、稲荷神社の社頭には、崇敬者から奉納された鳥居が幾重にもわたり建てられていることがあり、殆どが朱塗りの鳥居です。

朱色は生命の躍動を現すとともに、古来災厄を防ぐ色としても重視されてきました。このため古くは御殿や神社の社殿などに多く用いられており、稲荷神社の鳥居の朱色もこの影響によるものと考えられます。

一方、狐を稲荷神のお使いとすることで、これは稲荷神の農耕神としての性格と関連するものと考えられます。この

信仰は「イナリ」の語源を「イネナリ」の略とするなど、田の神に対する信仰と深く結びついたものでした。田の神の信仰は当然のことながら、食物神でもある「宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)」と繋がり、稲の稔りの季節が近くなると、山から人里近くに現れるようになる狐の姿を、人々が神聖なものとして捉えたことによると考えられます。狐は稲の豊穡をもたらす山の神のお使いであり、山の神は里に降つては田の神となるため、狐は田の神である稲荷神のお使いということになるわけです。

後には、食物神の総称ともいえる「御食津神(みけつかみ)」が「三狐津神」と記述されるなど狐神に通ずることが一般に語られることから、稲荷神と狐の結び付きが連想されます。

このほかにも、春日の鹿や日吉の猿など多くの動物が神のお使いとされており、こうしたことは自然との共存を大切に考えてきた日本人の信仰によるものといえます。